

## 競技注意事項（申し合わせ事項）

### 1. 競技について

- 1) 本競技会は、2013 年度日本陸上競技連盟規則及び本大会の申し合わせ事項によって行う。
- 2) 競技用靴について（競技規則第143条2・3・4・5・6参照）

スパイクピンの数は11本以内とし、長さは、9mm以内、走高跳・やり投は12mm以内とする。

本陸上競技場の使用に当たっては、スパイクピンは9mm以下、ただし、走高跳とやり投については12mm以下を使用すること。
- 3) ナンバーカードについて（競技規則第143 条7・8・9を厳守）
  - a.すべての競技者は、ユニフォームの胸・背に折らずに着けること。ただし、跳躍競技は胸・背いずれかに着けるだけでよい。
  - b.トラック競技出場者（リレー競技は第4走者のみ）は、腰用レーンナンバー標識を使用する。また、1500m・5000mはオーダーナンバーカードを使用する。これらは招集時に受け取り、フィニッシュ後に返却すること。
- 4) スターターの合図は英語とする。不正スタートについては、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする（規則162 条7 参照）。
- 5) 短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュ後も同じレーンの曲走路を走ること。
- 6) 男子5000m 競走では、気象状況に応じて、バックストレート側に給水を用意する。
- 7) リレー競技について：規則第170 条を理解し、規則違反が生じないように注意すること。
  - a. メンバー編成は、予選決勝とも2名はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。これ以外は、本大会に申し込んでいる競技者であれば出場できる。決勝では2人以内に限り交替できる。
  - b. オーダー用紙は、予選、決勝とも招集完了時刻の1 時間前までに招集所競技者係へ提出すること。
  - c. 4×100mR の第2,3,4 走者が使用する粘着テープ（最大50mm×400mm のマーカー）は、各ゾーンの出発係から受け取ること。これ以外のマーカーを置くことは許されない。
  - d. 男子4×400mR の第3、4 走者は審判員の指示に従い、前走者が200m スタート地点を通過した順序で、内側より並び待機する。その後、この順序を維持しなくてはならず、バトンを受け取るまで入れ替わることは認められない。違反した場合は、そのチームを失格とする。
- 8) 走高跳のバーは、競技者が最後の1 人になり優勝が決まるまでは次のとおりとする。但し、気象状況等により審判長の判断で変更する場合もある。また、下記以外の公式練習の高さは、審判長が判断する。

	練習	1	2	3	4	以降
男子走高跳	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	以後最後の1人になるまで3cm
女子走高跳	1m30	1m35	1m40	1m45	1m48	以後最後の1人になるまで3cm

### 9) 競技用器具について

- a.競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使用すること。ただし、やりについては競技場備え付けの投てき用具リストに無いものに限り当日検査の上使用を認める。希望者は競技開始1時間前までに検査所（競技場内器具庫…100mスタート付近）で検査を受けること。検査に合格した器具については借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。
  - b.フィールド競技で、助走路に使用できるマーカーは主催者が用意したものを2 個まで、サークルからの投てき種目では1 個置くことができる。個人の所有物は使用できない。
- 10) 抗議と上告は規則第146 条により行うこと。競技結果または行為に関する抗議は、結果発表後予選は15

分以内、決勝は30分以内に、競技者自身または監督から審判長へ口頭で行う。

## 2. 棄権、招集およびリレーのオーダー用紙について

- 1) 棄権する場合は、棄権届けを招集時刻前に招集所競技者係に提出すること。
- 2) 招集所はバックスタンド北側（200mスタート地点）室内練習場内に設ける。
- 3) 招集は、トラック競技：競技開始15分前完了、  
フィールド競技：競技開始30分前完了、但し、円盤投とやり投は競技開始50分前完了とする。
- 4) 招集に遅れた者及びリレーのオーダー用紙提出が遅れた場合は棄権とみなし処理する。
- 5) 2種目を同時に兼ねる競技者は、2種目同時出場届を競技者係に提出すること。
- 6) 競技者の入退場は、係員の指示に従うこと。

## 3. 練習について：練習は原則として補助競技場を使用する。砲丸投以外の投擲練習は禁止する。

- 1) 練習は審判員の指示に従い安全面に十分注意すること。投擲練習は、引率者等が必ず付き添うこと。
- 2) 補助競技場は1周300m 第4種競技場で、走路は全天候舗装である。
- 3) 補助競技場での砲丸投以外の投擲練習は禁止する。今回、投擲練習場が使用できない為、円盤投とやり投については招集時間を早め、試合ピットで練習できるようにする。
- 4) メイン・補助競技場での練習使用可能時間は次のとおりである。  
17日(土)：メイン競技場 9時00分～18時      補助競技場 9時00分～18時  
18日(日)：メイン競技場 8時00分～12時30分      補助競技場 8時00分～18時  
19日(月)：メイン競技場 7時30分～9時      補助競技場 7時30分～16時
- 5) メイン競技場及び補助競技場では逆走、チューブ・牽引ロープ等の用具を使った練習は危険防止のため禁止とする。また、レーン上にカラーコーン等を置いての練習も禁止とする。

◎メイン競技場（400m 8レーン、直走路9レーン）

◆1～2レーン：中長距離    ◆3～7レーン：短距離    ◆8～9レーン（直走路）：ハードル

◎補助競技場（300m 4レーン、直走路6レーン）

■1レーン：中長距離    ■2～4レーン：短距離    ■5～6レーン（直走路）：ハードル

◎雨天練習場（直走路約70m・5レーン）

危険防止のためジョック及び流しまでの練習とする。

- 6) メイン競技場での投擲練習使用可能時間は次のとおりである。

	円盤投	やり投
17日(土)	9:30～11:30、13:30～15:30	11:30～13:30、15:30～17:30
18日(日)	9:00～11:00	11:00～12:30、17:20～18:20
19日(月)		7:30～9:00

## 4. その他

- 1) 表彰は各種目3位まで行う。該当者(代理可)は表彰予定時刻表を確認し、表彰者控え席に集合すること。  
なお、状況により表彰予定時刻が変更になる場合にはアナウンスで連絡する。
- 2) 競技中の負傷については、医務員が応急処置を行うが、その後の処置は各校で行うこと。
- 3) 出場する競技者・補助員以外は競技場内（トラックと同一面のエリアを含む）に立ち入らないこと。
- 4) 応援はスタンドで行い、競技場内や雨天走路及びメインスタンドでの集団応援は禁止する。
- 5) ビデオ装置、ラジオ、携帯電話、その他通信機器、ヘッドフォン等は競技場内に持ち込んではいけない。
- 6) 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合は、「競技会における広告および展示物に関する規程」（2013年1月修正）のとおりとする。以下、一部を抜粋する。

a) ウインドブレーカー・Tシャツ・トレーナー類

製造会社名/ロゴ：右胸または左胸1ヶ所、文字の高さ4cm 以内、トータルのロゴの高さ5cm 以内で面積40cm<sup>2</sup>以内の長方形とする。

b) 下半身のタイツ等 製造会社名/ロゴ：1ヶ所、文字の高さ4cm 以内、面積20cm<sup>2</sup>以内とする。

c) ソックス 製造会社名/ロゴ：1ヶ所、高さ3cm 以内、面積6cm<sup>2</sup>以内とする。

d) バッグ類 製造会社名/ロゴ：2ヶ所、面積25cm<sup>2</sup>以内とする。

e) その他の衣類（帽子、ヘッドバンド、サングラス、手袋、リストバンドなど）

製造会社名/ロゴ：衣類（製品）1つにつき1ヶ所、面積6cm<sup>2</sup>以内とする。

f) 競技者の衣類が本規程に適合しない場合、それを覆うか無印の衣類を身につけること。

7) テントの設営は、正面スタンドは禁止とする。横断幕、のぼり等についてバックスタンド掲揚ポールを隠す張り方は禁止とする。それ以外の場所については特に制限を設けないが、競技進行、観客の支障にならないよう配慮すること。競技役員から指摘された場合は、その指示に従うこと。

8) 各校ベンチの場所取りは、観客へも配慮し、必要以上に広い面積を独占しないこと。荷物等の放置による盗難等への対応は、主催、主管及び競技場側は関与できないので注意すること。

9) ゴミは原則として各校で必ず持ち帰ること（ゴミ袋は学校受付の際配布する）。

10) 競技結果速報は、競技場正面入口に掲示する。また、速報およびその他大会に関する情報は、次のWebサイトにて携帯電話等からも閲覧できる。

いわき陸上競技協会HP <http://gold.jaic.org/iwaki/>

◎速報サイト

◎大会情報、結果

11) 公認記録証（1部500円）を福島陸上競技協会が発行する。希望者は大会期間中に大会総務まで連絡すること。

12) 男子砲丸投と円盤投の記録公認について

砲丸と円盤は高校・ジュニア規格を使用するため、2013年12月31日現在で19歳を超える競技者は、記録が公認されない。（生年月日記入）。但し、全国高専記録および大会記録は従来どおり認めるものとする。

13) ハードルの高さおよび投てき種目の重さ

ハードル種目の高さ	男子	110mH	1.067m				
	女子	100mH	0.838m				
投てき種目の重さ	男子	砲丸投	6.000kg	円盤投	1.750kg	やり投	0.800kg
	女子	砲丸投	4.000kg	やり投	0.600kg		

【投擲用具一覧】

品名	メーカー	数量	備考	小計
<b>【砲丸】4.000kg</b> 女子用				9
鉄製φ109mm	NISHI	1		
鉄製φ103mm	NISHI	5		
鉄製φ99mm	NISHI	3		
<b>【砲丸】6.000kg</b> 高校男子・ジュニア規格				11
鉄製φ117mm	NISHI	11		
<b>【円盤】1.000kg</b> 女子用				14
スーパー	NISHI	7		
ミッド	NISHI	3		
ペーサー サターンⅡ		1		
OTE		1		
デンフィー		1		
ギル ホーローラッドスター		1		
<b>【円盤】1.750kg</b> 高校男子・ジュニア規格				12
スーパー	NISHI	12		
<b>【やり】0.800kg</b> 男子用				19
メイン	NISHI	2		
スーパー	NISHI	3		
ロング	NISHI	2		
ミディアム	NISHI	1		
ハイブリッドウイング	NISHI	2		
チャンピオン	サンドビック	1		
スーパーエリート90	サンドビック	1		
スーパーエリート80	サンドビック	1		
マスター70	サンドビック	1		
マスター60	サンドビック	1		
ネメト クラシック90		1		
ネメト クラシック85		1		
OTE(追い風用)		1		
OTE(向い風用)		1		